

2025(令和7)年 1月9日(木) 145011号 (通巻)

メタル情報ネット

〒530-0043
 大阪市北区天満 2丁目 12番 3
 電話：06-6353-7831
 FAX：06-6353-7832
 E-mail：info@metalnet.jp

購読料 (税込)	外電配信料 (税込)
79,200円 (12か月)	92,400円 (12か月)
39,600円 (6か月)	46,200円 (6か月)
19,800円 (3か月)	23,100円 (3か月)



日刊メタルジャーナル



銅建値は2万円引き上げの145万円

1月の月内建値平均は144万7,800円

JX金属は8日、電気銅建値を2万円引き上げの145万円にすると発表、同日より実施した。2025年1月の月内建値平均は144万7,800円。

8日に入電した直近のLME銅相場前場売値が8,886.00ドル。8日の東京市場の米ドルTTSレートは159.09円。この値で換算した採算価格は、141万3,600円。建値と採算価格から見た諸掛りは3万6,400円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り(キロ当たり円、カッコ内は改定日)。

2024年

8月…	1420(1) 1360(5) 1320(7) 1360(13) 1390(19)	
	1360(21) 1370(27)	平均1365.0
9月…	1390(2) 1340(4) 1310(9) 1330(12) 1350(17)	
	1370(19) 1400(24) 1450(26)	平均1367.3
10月…	1450(1) 1510(3) 1500(8) 1470(10) 1450(16)	
	14700(21) 1480(24) 1490(29)	平均1476.6
11月…	1480(1) 1510(6) 1470(11) 1440(13) 1420(18)	
	1440(20) 1410(25)	平均1448.4
12月…	1390(2) 1400(5) 1430(10) 1420(13) 1430(19)	
	1440(24)	平均1419.4
2025年		
1月…	1430(6) 1450(8)	平均1447.8

METALNET.JP



黄銅削粉買値は12円引き上げの1,034円

関西の黄銅棒大手メーカー日本伸銅は8日、黄銅削粉買値12円引き上げ1.034円と発表した。

今月2回目の改定。2025年1月の月内買値平均は1032.7円。

電線総合技術センター

HP全面リニューアル

電線・ケーブルに関する研究開発、試験・認証などに取り組んでいる一般社団法人電線総合技術センター(岡本達希会長、静岡県浜松市)はこのほど、ホームページを全面的にリニューアルした=トップ画面を引用。

「より使いやすいホームページ」を旨とし、2024年12月24日に刷新。新サイトのURLは「https://www.jectec.or.jp」で変更なし。移行後の問合せ・申込専用メールアドレスは「info@jectec.or.jp」に切り替えた。



トップ画面には、「4つの事業」の「受託試験」、「電線の認証」、「研修セミナー」、「研究開発」のボタンを分かりやすく表示。それぞれクリックしていくと、次々に具体コンテンツが現われ、使いやすくなっている。

故銅・銅滓 アルミ原料

高価即金買入
——ご照会を乞う。

森下商店

大阪市西成区南津守 7-12-46
 TEL (06)6659-5577~8
 FAX (06)6659-5579

年頭所感



経済産業省製造産業局

局長 伊吹英明

令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

いま、世界は大きな転換期を迎えています。保護主義の台頭やウクライナ侵攻の長期化等による地政学リスクの高まりや、AI等の技術革新の加速化、気候変動をはじめとした地球規模課題に対する各国政府の関与の強まりなど、様々な構造的変化が生まれています。

こうした中、日本経済も、これまでのコストカット型のデフレ経済から、持続的な賃上げや活発な投資でけん引する成長型経済への転換局面を迎えています。昨年は、1991年以来の高水準の賃上げや、過去最高の設備投資が実現するなど、日本経済に明るい兆しが見られました。他方、足下、消費は未だ力強さを欠いています。

本年は、この成長型経済への転換を確実なものとするため、物価高に負けない持続的な賃上げを実現し、これを更なる投資の拡大へと繋げていかなければなりません。そのために、「GX」「DX」「経済安全保障」の3軸に基づく取組が重要であり、経済産業省製造産業局は、製造業の皆様へのこれらの取組を支援してまいります。

GX

脱炭素社会への移行は「待ったなし」の状況であり、産業界にも変革が求められています。昨年末に案が示されたGX2040ビジョンでは、「GX産業構造」、「GX産業立地」、「GX加速に向けたエネルギー分野」などの取組を総合的に検討し、事業環境の変化が激しい中でも企業の見込み可能性を高めてGX投資につなげるべく、より長期的視点に立ち、GX実現に向けた見通しを示しました。

日本全体のCO2排出量の20%以上を占める鉄鋼・化学・紙パルプ・セメントといった産業部門は、「Hard-to-abate」、すなわち排出削減が困難なセクターとされているように、GXの実現は容易ではありません。そこで、令和2年度補正予算にて作成した「グリーンイノベーション(GI)基金」では、水素還元製鉄技術や、CO2を用いたプラスチック、コンクリートの製造技術等を開発するプロジェクトを進めています。

また、Hard-to-abate産業だけでなく、自動車や航空機などを含んだ重点16分野についても、GX経済移行債を活用した先行投資支援の方針を示すとともに、個別分野ごとの支援を進めています。既に、大型革新電炉の設備投資支援に向けたプロジェクト選定や電動車普及に向けた車両導入支援や充電インフラの整備支援などが進んでいます。我が国が世界に先駆けて支援を実施してきた水素についても、技術開発から社会実装まで、引き続き推進してまいります。

グリーン市場の創造のための取組も加速しています。電動建機の購入補助を公共調達で推進する取組が進んでいます。さらに、すでに多くの企業にご参画頂いているGXリーグのもとで試行的に実施してきたGX-ETS(排出量取引制度)の本格稼働やGX製品の価値の「見える化」を契機として、グリーン市場の創造が加速することを期待しています。

昨年に開催された第2回AZEC(アジア・ゼロエミッション共同体)首脳会合では、日本のリーダーシップのもとで、脱炭素化、経済成長、エネルギー安全保障の同時達成や、多様な道筋によるネット・ゼロの実現というAZEC原則が合意されたところです。今後も、昨年末に案が提示されたエネルギー基本計画や地球温暖化対策計画に基づき、必要な政策措置を講じつつ、業界の取組を後押ししてまいります。

DX

近年の生成AIの技術革新と社会受容の加速、そして半導体の高性能化による産業界への影響はより一層大きなものとなり、企業経営や産業構造までもが変化する可能性が開かれています。政府全体としては、世界市場の大きな成長が見込まれるAI・半導体分野について、今後2030年度までに10兆円以上の公的支援を行うこととしています。今後、ターゲット材やPFA樹脂等、半導体を形づくる部素材の製造基盤強化支援をさらに進めてまいります。

現状、我が国製造事業者のDXは個別工程の最適化が中心となっていますが、より一層競争力を高めていくには、企業全体、さらにはサプライチェーンや産業全体での最適化を志向する必要があります。こうした課題を踏まえ、各企業が経営課題起点で全社最適なDXを推進するための手引きとして、NEDO・経済産業省は昨年6月、「スマートマニュファクチャリング構築ガイドライン」を公表しました。本年は、企業・業界を横断したデータの利活用を促進し、産学官が連携して企業・産業競争力の強化を目指す「ウラノス・エコシステム」の推進等に取り組んでいきます。

ドローンや空飛ぶクルマといった先進技術導入による「事業機会の拡大」も重要です。ドローンについては、1対多運航技術、運航管理システム(UTM)等への支援により、物流問題や災害対応など様々な分野での利活用を推進してまいります。空飛ぶクルマについては、機体OEMや部品サプライヤーの技術開発を支援することにより、新たな市場獲得を目指しています。省力化や生産性向上の切り札となるロボットについては、スタートアップ等の多様な主体による開発を促すオープンな開発環境の構築に取り組み、人手不足という社会課題への対応や産業DXを推進してまいります。また同様に、DXを活用した建材・住宅設備のサプライチェーンの物流効率化や、3Dプリンタの活用による「ものづくり」の変革にも取り組んでいきます。

宇宙は日本が潜在的な強みを持つ産業分野の一つです。2040年までに約140兆円規模の成長が予測される宇宙ビジネス市場での国際的な競争力を獲得するため、昨年、経済産業省は宇宙産業室を「宇宙産業課」に改組し、宇宙関連政策を実施する体制を強化しました。宇宙戦略基金の活用を通じて、衛星・ロケットの打上げや、そこから得られるデータの利活用を加速する技術開発を強力に後押ししてまいります。

個別産業

GXとDXが競争力を規定する製造業分野の一つに、自動車産業があります。GX分野に関しては、日系メーカーが多様な選択肢を持ちつつも、「EVでも勝つ」競争力を獲得するために、充電インフラの整備や電動車の購入補助、蓄電池やモーターの開発を支援してまいります。DX分野に関しては、昨年5月に策定された「モビリティDX戦略」にて、SDV(Software Defined Vehicle)の2030~2035年グローバル販売台数における「日系シェア3割」実現を目指し、民間の技術研究組合の取組やOEM横断のAPI標準化推進、ロボットタクシーの早期実装等を支援してまいります。

また、極めて高い複雑性を有し、高度な安全認証試験を要求される航空機産業も、そうした分野の一つであり、機体・エンジン・MROの領域で取組を進めています。機体については、機体軽量化に資する複合材の開発支援を実施することで、次期単通路航空機事業への参画を目指しています。エンジンについては、電池やモーターといった次世代電動航空機のコア技術の開発支援を推進しています。さらに、MRO、すなわち製造以外の整備(Maintenance)、修理(Repair)、分解して清掃し新品時の状態に戻すオーバーホール(Overhaul)については、海外主要OEMの動向も踏まえつつ、MRO拠点の整備や整備データの製品開発への反映等を推進してまいります。

経済安全保障

GXやDXに不可欠な蓄電池やAI、半導体、ロボット及びこれらの製造に使われる部素材や装置は、世界的に覇権争いが激化しており、経済安全保障の観点からも重視されています。政府としては、2022年に成立した経済安全保障推進法を踏まえ、重視すべき物資・技術を「破壊的技術革新が進む領域」、「我が国が技術優位性を持つ領域」、「対外依存の領域」の3つに整理し、それぞれに対して取組の方向性を規定しています。

破壊的な技術革新が進む領域、すなわち先端半導体や量子コンピュータ等に対しては、産業基盤強化策による技術優位性の確保が必要です。また、企業経営の戦略においても、これまでにないサプライチェーン全体を意識した競争優位性・不可欠性と自律性を強化する取組が求められており、企業間の連携がカギとなっています。経済産業省では、こうした企業間の連携を促すため、産業界との戦略的対話の深化・拡大を図っています。

我が国が技術的優位性を持つ領域、すなわち製造装置や部素材等に対しては、包括的な技術流出対策を講じる必要があります。経済産業省では、安全保障の観点から管理を強化すべき重要技術の移転に際して、事前報告を義務づける制度を構築することにより、官民の対話の機会を確保し、国益を損なう技術流出やそれによる予期せぬ軍事転用の防止を図っています。制度を施行した昨年末時点で、他国の関心や我が国の優位性を踏まえながら10の技術を告示しました。今後、事前報告を義務づける対象技術を適時追加していく方針です。

対外依存の領域、すなわちレアメタルや銅といった重要鉱物に対しては、過剰依存構造の是正を図る必要があります。経済産業省では、昨年7月、鉱物課を

(次頁につづく)

2025(令和7)年 1月9日(木)

製造産業局に移管することで、資源戦略と産業戦略を統合させた施策を講じるための体制を構築しました。今後、代替輸入先の確保や、輸入措置への備えとしての備蓄確保、既製品からのリサイクル等を通じて、産業界にとって必要な資源の確保に努めてまいります。特に銅については、導電性や熱伝導性、加工性に優れており、GX・DXの進展により世界的な需要が増大しています。今後、製造産業局としては、アフリカなどのフロンティア地域を中心に、新たな上流権益確保を通じた供給源多様化を支援していく方針です。また、国産海洋資源の資源量調査や生産技術開発等の取組もより加速してまいります。

このような3つの取組を円滑に進めるために、同志国との連携による国際経済秩序の維持にも取り組んでまいります。あり得る経済的威圧に対する備えとして、G7各国をはじめとする同志国と個別プロジェクトを進めるとともに、実際に威圧を受けた場合は、その影響を緩和するための措置や国際ルールに沿った対応を進めてまいります。

最後の挨拶

産業界が今直面する課題は、官も民も一歩前に出て取り組まないと解決できないため、国内外で活躍されている産業界の皆様との日々の対話を通じ、将来につながる日本の経済基盤をともに形作っていきたくと考えております。

本年は大阪・関西万博の開催年であり、開催まで約3か月となりました。「未来社会の実験場」として、最先端の技術が集結し、新たな産業の誕生・成長の機会になることを期待しています。ぜひ、ご家族やご友人と一緒に足を運んでいただきますようお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

鉬工業生産・出荷11月
3か月ぶりマイナス 11業種低下
「一進一退」は据え置き

経産省

経済産業省がこのほど発表した2024年11月の鉬工業生産・出荷等動向によると生産指数は101.7(15年=100、季節調整済み)、前月比はマイナス2.3%と低下。生産用機械工業等が低下したことから全体として3か月ぶりに低下、基調判断は「一進一退」を据え置いた。

24年9月には自動車工業や無機・有機化学工業等が上昇したことから全体として上昇。10月も生産用機械工業や自動車工業などが主導し上昇したが、11月は生産用機械工業や自動車工業などが低下し、全体を下げた。

11月の業種別では、全15業種のうち11業種が前月比低下、3業種が上昇し、1業種は横ばいだった。

低下の最も大きかった生産用機械工業は、半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が主な低下要因。次に低下が大きかった自動車工業は、普通乗用車、小型乗用車等が、その次に低下した金属製品工業は、橋りょう、飲料用アルミニウム缶等が主な低下要因となった。

一方上昇が大きかった汎用・業務用機械工業はコンベヤ等が主な上昇要因となったほか、次に上昇した輸送機械工業(自動車工業除く)は航空機用発動機部品等が主な上昇要因となっている。

鉬工業出荷も3か月ぶりに低下し、季節調整済指数は99.6、前月比

鉬工業生産指数の動向と先行き



マイナス2.7%だった。

全15業種のうち11業種が前月比低下し、4業種が上昇した。

低下の大きかった生産用機械工業は半導体製造装置、ショベル系掘削機械等が、次に低下が大きかった自動車工業は普通乗用車、小型乗用車等が主な低下要因となった。

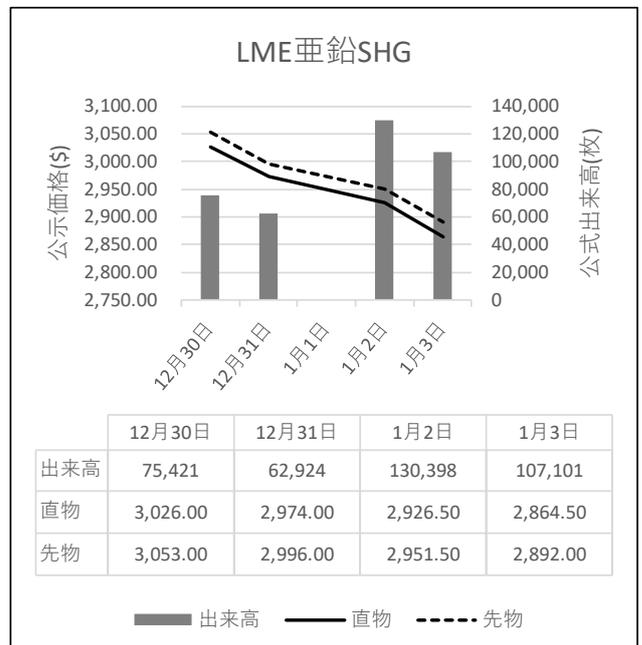
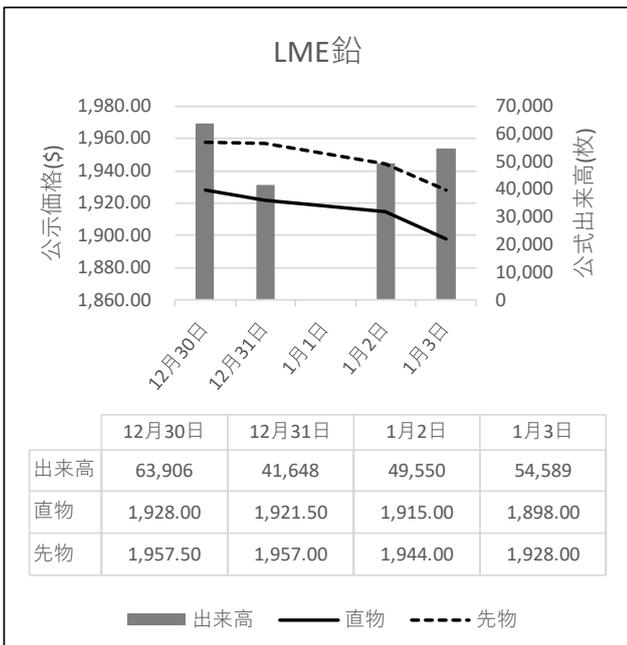
上昇の大きかった汎用・業務用機械工業ではコンベヤ等が、次に上昇した石油・石炭製品工業では灯油等が主な上昇要因となった。

別出荷指数は、生産財が自動車用エンジン、リチウムイオン蓄電池等の出荷減により前月比マイナス1.1%と低下。耐久消費財は普通乗用車、小型乗用車等の出荷減により同マイナス3.9%、資本財(輸送機械除く)は半導体製造装置、ショベル系掘削機械等の出荷減により同マイナス2.4%となったほか、建設財が橋りょう等の出荷減により同マイナス3.5%、非耐久消費財が仕上用化粧品等の出荷減により同マイナス0.5%となった。

先行きについては、企業の生産計画では12月、1月とも上昇を見込んでいるが、計画は実績より上振れ傾向があることから、「一進一退」は継続するとみている。

LME公式値週間推移

12月30日~1月3日(現地)



故銅市況

8日朝入電の海外相場は、LME（ロンドン金属取引所）の銅相場で、直物の前場売値が前営業日の8,893.50ドルより7.50ドル安の8,886.00ドル。直物の終値は、前営業日の8,887.10ドルより0.21ドル安の8,886.89ドル。3か月物の前場売値は、前営業日の9,000.50ドルより3.50ドル高の9,004.00ドル。3か月物の終値は、前営業日より横ばいの9,003.00ドル。COMEX(ニューヨーク商品取引所)銅相場の3月限は、前営業日の416.15セントより3.40セント高の419.55セント。SHFE(上海期貨交易所)の銅相場2月限は、前営業日の7万3,660元より760元高の7万4,420元。

8日の東京為替市場TTSレートは、前日の159.22円より0.13円の円高ドル安、1ドル=159.09円。8日に入電した直近のLME銅相場直物前場売値は8,886.00ドル。この値と8日の東京外国為替市場USドルTTSレ

アルミ二次合金メーカー買値実勢値

(1トン程度・置場・現金・キロ当たり円)

関東地区 (1月前半)

2S=248円～269円、63S=234円～284円、アルミホイール(1P)=250円～264円、ビス付サッシ=138円～149円、エンジンコア=153円～155円、込合金(機械鋳物)=146円～154円、缶プレス(ソフト)=135円～147円。

関西地区 (1月前半)

2S=2S=268円～278円、63S=265円～279円、印刷版=265円～267円、アルミホイール(1P)=280円～301円、ベースメタル=177円～155円、機械鋳物=167円～168円、ダライ粉=169円～199円、ビス付サッシ=167円～189円、缶プレス=175円～177円。

トから計算した国内採算値は、前日の145万4,000円より3,000円安の145万1,000円。この日、電気銅建値は145万円に引き上げられた。

為替動向

7日、ロンドン外国為替市場のユーロは対ドルで下落。16時、前日と比べ0.0020ドルのユーロ安ドル高、1ユーロ=1.0370ドル～1.0380ドルで推移した。この日、米国のISMが発表した2024年12月の非製造業景況感指数が54.1と市場予想の53.6を上回った。同日発表された米国の24年11月雇用動態調査でも求人件数が809万8,000件と市場予想の770万件を上回った。英ポンドも対ドルで小幅ながら下落。16時、前日と比べ0.0010ドルのポンド安ドル高、1ポンド=1.2490ドル～1.2500ドルで推移した。

7日のニューヨーク外国為替市場で円相場は続落した。前日と比べ0.50円の円安ドル高、1ドル=158.05円～158.15円で取引を終えた。経済指標の底堅さから米長期金利は約8か月ぶりの高水準になり日米の金利差拡大で円売りドル買いの優勢が続いた。

8日午前の東京外国為替市場で円相場は下落した。12時、前日17時と比べ0.60円の円安ドル高、1ドル=158.08円～158.10円で推移した。米長期金利が高水準で推移するなかドル買いが進んだ。円は対ユーロでは上昇。12時、前日17時と比べ0.36円の円高ユーロ安、1ユーロ=163.66円～163.69円で推移した。

故銅直納問屋筋の平均値頃感 (単位は千円)

(1月8日更新)

直納問屋筋によるロット物 (5トン前後) の平均的な値頃感は次の通り。

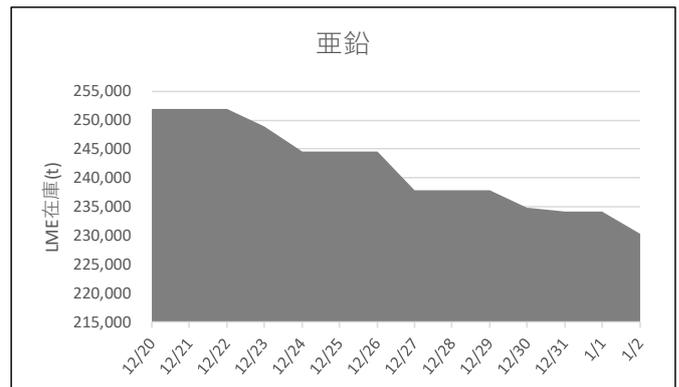
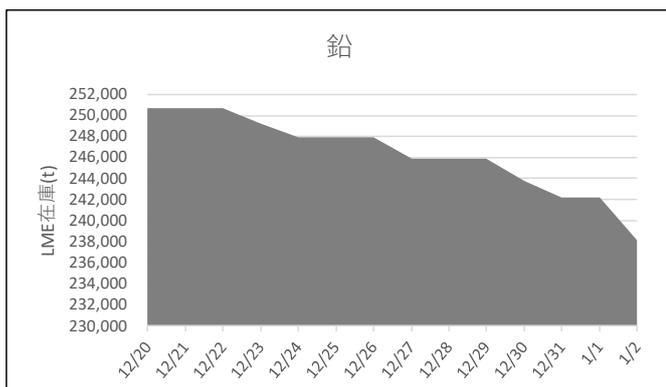
ピカ線が1047～1052、上銅新のうちタフピッチや無酸素銅などは1024～1029、並銅は977～982、込銅 (高品位 = 約97%) は967、セパは768～773。コーペルは要り用筋で744、それ以外は736ほど。黄銅削粉も同様に要り用筋721、それ以外708～713どころの値頃。並青銅鋳物削粉は816～821どころ。

小口市中相場(1トン前後)では、ピカ線が1039～1044、上銅新くずが1016～1021、普通上銅が1012～1017、2号銅線が1005～1010、並銅が969～974、込銅(94-97%)が959、込銅(90-93%)が955、下銅が946～951、セパが760～765、コーペルが731～736、黄銅棒地が713～718、黄銅削粉が698～703、黄銅ラジが602～607、交叉ラジが630～635、黄銅銅鋳物が676～681、送りが380～385、上青銅鋳物が829～834、並青銅鋳物が828～833、上青銅鋳物削粉が824～829、並青銅鋳物削粉が806～811どころ。



LME認定倉庫在庫量推移

12月20日～1月2日(現地)





▶LME銅相場はまちまち 直物終値は8,886.89ドル ▶COMEX銅相場は続伸 SHFE銅相場も続伸
 ▶LME非鉄相場はまちまち 直物終値は亜鉛2,836.94ドル、アルミ2,488.70ドル

8日朝入電した海外相場は、LME（ロンドン金属取引所）の銅相場で、直物の前場売値が、7日入電の8,893.50ドルより7.50ドル安の8,886.00ドル。3営業日ぶりに反落して0.08%安。この週2.13%の上伸。1月に入って2.07%の上伸。3か月物の前場売値は、7日入電の9,000.50ドルより3.50ドル高の9,004.00ドル。3営業日の続伸で2.38%高。この週2.18%の上伸。1月に入って2.07%の上伸。LME公認倉庫の現地6日銅在庫は、3日の26万8,650トンより1,500トン減の26万7,150トン。

COMEX（ニューヨーク商品取引所）の銅相場1月限は、7日入電の412.70セントより3.35セント高の416.05セント。4営業日の続伸で4.38%高。この週3.00%の上伸。1月に入って4.38%の上伸。2月限も、7日入電の414.00セントより3.35セント高の417.35セント。3営業日の続伸で4.17%高。この週2.95%の上伸。1月に入って4.16%の上伸。

SHFE(上海期貨交易所)の銅相場1月限は、7日入電の7万3,700元より630元高の7万4,330元。2営業日の続伸で1.74%高。この週1.74%の上伸。1月に入って0.72%の上伸。2月限も、7日入電の7万3,660元より760元高の7万4,420元。2営業日の続伸で1.92%高。この週1.92%の上伸。1月に入って0.84%の上伸。

錫は続伸

LME錫相場の前場売値は、直物が、7日入電の2万9,250.00ドルより300.00ドル高の2万9,550.00ドル。3営業日の続伸で4.69%高。この週3.23%の上伸。1月に入って2.25%の上伸。3か月物の前場売値も、7日入電の2万9,475.00ドルより140.00ドル高の2万9,615.00ドル。3営業日の続伸で4.06%高。この週2.65%の上伸。1月に入って1.60%の上伸。LME公認倉庫の現地6日錫在庫は、3日より横ばいの4,705トン。

鉛は反落

LME鉛相場の前場売値は、直物が、7日入電の1,918.00ドルより11.00ドル安の1,907.00ドル。反落して0.57%安。この週0.47%の上伸。1月に入って0.75%の下落。3か月物の前場売値も、7日入電の1,954.00ドルより14.00ドル安の1,940.00ドル。反落して0.62%安。この週0.62%の上伸。1月に入って0.87%の下落。LME公認倉庫の現地6日鉛在庫は、3日の23万4,900トンより200トン減の23万4,700トン。

亜鉛も反落

LME亜鉛相場の前場売値は、直物が、7日入電の2,879.00ドルより35.00ドル安の2,844.00ドル。反落して1.22%安。この週0.72%の下落。1月に入って4.37%の下落。3か月物の前場売値も、7日入電の2,922.00ドルより37.00ドル安の2,885.00ドル。反落して1.27%安。この週0.24%の下落。1月に入って3.70%の下落。LME公認倉庫の現地6日亜鉛在庫は、3日の22万9,150トンより4,625トン減の22万4,525トン。

アルミは続伸 アルミ合金は横ばい 北米特殊も横ばい

LMEアルミ相場の前場売値は、直物が、7日入電の2,480.00ドルより4.00ドル高の2,484.00ドル。2営業日の続伸で0.36%高。この週0.36%の上伸。1月に入って1.29%の下落。3か月物の前場売値も、7日入電の2,511.00ドルより2.00ドル高の2,513.00ドル。2営業日の続伸で0.32%高。この週0.32%の上伸。1月に入って1.08%の下落。LME公認倉庫の現地6日アルミ在庫は、3日の63万6,775トンより2,500トン減の62万4,275トン。

LMEアルミ合金相場の前場売値は、直物が、7日入電より横ばいの2,255.00ドル。この週横ばい。1月に入って横ばい。3か月物の前場売値も、7日入電より横ばいの2,255.00ドル。この週横ばい。1月に入って横ばい。

LME北米特殊アルミ合金（NASAAC）相場の前場売値は、7日入電より横ばいの2,400.00ドル。この週横ばい。1月に入って2.04%の下落。3か月物の前場売値も、7日入電より横ばいの2,400.00ドル。この週横ばい。1月に入って2.04%の下落。

ニッケルは続伸

LMEニッケル相場の前場売値は、直物が、7日入電の1万5,070.00ドルより50.00ドル高の1万5,120.00ドル。2営業日の続伸で2.37%高。この週2.37%の上伸。1月に入って0.13%の上伸。3か月物の前場売値も、7日入電の1万5,270.00ドルより55.00ドル高の1万5,325.00ドル。2営業日の続伸で2.20%高。この週2.20%の上伸。1月に入って0.10%の上伸。LME公認倉庫の現地6日ニッケル在庫は、3日の16万4,280トンより1,086トン増の16万5,366トン。

LME公示価格(US\$)／1月7日

		銅	錫	鉛	亜鉛	アルミ	アルミ合金	北米特殊アルミ合金	ニッケル
直物	公示価格	8,886.00	29,550.00	1,907.00	2,844.00	2,484.00	2,255.00	2,400.00	15,120.00
	前営業日比	▲ 7.50	300.00	▲ 11.00	▲ 35.00	4.00	0.00	0.00	50.00
先物	公示価格	9,004.00	29,615.00	1,940.00	2,885.00	2,513.00	2,255.00	2,400.00	15,325.00
	前営業日比	3.50	140.00	▲ 14.00	▲ 37.00	2.00	0.00	0.00	55.00

海外非鉄金属相場

(1月8日 入電・現地 1月7日)

1ロット=銅、鉛、亜鉛、アルミは25トン
錫5トン、アルミ合金20トン、ニッケル6トン
セツルメント=現物・前場・売

	前場買値	前場売値	終値	出来高
銅 A G				
現物	8,885.50	8,886.00	8,886.89	
前日比	▲ 7.50	▲ 7.50	▲ 0.21	
先物	9,002.00	9,004.00	9,003.00	112,473
前日比	2.50	3.50	0.00	▲ 54,804

錫 H G				
現物	29,525.00	29,550.00	29,795.00	
前日比	300.00	300.00	725.00	
先物	29,575.00	29,615.00	29,944.00	7,291
前日比	125.00	140.00	655.00	1,406

鉛				
現物	1,906.50	1,907.00	1,924.99	
前日比	▲ 10.50	▲ 11.00	11.22	
先物	1,939.50	1,940.00	1,956.00	50,789
前日比	▲ 13.50	▲ 14.00	10.50	▲ 6,332

亜鉛 S H G				
現物	2,843.00	2,844.00	2,836.94	
前日比	▲ 35.50	▲ 35.00	▲ 28.51	
先物	2,884.50	2,885.00	2,875.50	123,094
前日比	▲ 35.50	▲ 37.00	▲ 26.00	1,138

アルミ H G				
現物	2,483.50	2,484.00	2,488.70	
前日比	4.00	4.00	30.43	
先物	2,512.50	2,513.00	2,517.50	299,481
前日比	2.50	2.00	27.50	1,138

アルミ合金				
現物	2,245.00	2,255.00	2,255.00	
前日比	0.00	0.00	0.00	
先物	2,245.00	2,255.00	2,255.00	0
前日比	0.00	0.00	0.00	0

北米特殊アルミ合金				
現物	2,390.00	2,400.00	2,400.00	
前日比	0.00	0.00	0.00	
先物	2,390.00	2,400.00	2,400.00	0
前日比	0.00	0.00	0.00	0

ニッケル				
現物	15,115.00	15,120.00	15,171.48	
前日比	55.00	50.00	222.42	
先物	15,320.00	15,325.00	15,398.00	89,530
前日比	55.00	55.00	216.00	24,299

NY コメックス相場					
出来高: 1ロットは12.5ショート・トン、銅はポンド当たりセント					
金・プラチナ・パラジウムはオンス当たりドル、銀はオンス当たりセント					
	銅HG	金	銀	プラチナ	パラジウム
1月限	416.05	2656.7	3044.7	962.8	921.30
2月限	417.35	2665.4	3055.1	965.8	925.30
3月限	419.55	2677.4	3068.6	971.8	928.00
4月限	421.15	2690.3	-	976.7	-
5月限	422.45	-	3098.6	-	-
前日比	3.35	18.3	10.5	33.5	11.70
出来高	75,540	172,317	46,885	32,638	3,888

採算価格 フレート諸チャージ込み入荷ベース(上海は前日の元・円レートで換算)

為替相場	LME (円ベース/キロ)						COMEX	上海			
ドル・円	銅	錫	鉛	亜鉛	アルミ	ニッケル	銅	銅	アルミ	亜鉛	鉛
T T S	8886	29550	1907	2844	2484	15120	416	74330	19645	24650	16710
159.09	1456	4901	340	492	415	2605	1507	1623	429	538	365
-0.13	▲ 3	44	▲ 2	▲ 5	0	5	10	22	2	1	1

フリー・マーケット

■米国生産者価格(地金)

銀(セント/オンス) EH社	3045.0	(35.0)
銀(セント/オンス) HH社	3009.0	(▲ 6.5)

■NY相場

取引業者銅(セント/ポンド)	-	-	-
2号銅線くず(セント/ポンド)	-	-	-

■ロンドン相場(ドル)

金(オンス)	2650.85	(17.50)
アンチモン99.65%(トン)	39500	- 40000
ビスマス99.9%(ポンド)	6.09	- 6.38
カドミウム99.99%(ポンド)	2.30	- 2.50
インジウム99.99%(キロ)	367.50	- 400.00
セレンウム99.5%(ポンド)	14.50	- 15.00
スポンジチタン99.5%(キロ)	12.00	- 13.60
フェロモリブデン欧州産65%(キロ)	52.25	- 52.75
コバルトカソード99.8%(ポンド)	10.00	- 12.00
マグネシウム中国産99.9%(トン)	3450	- 3550
タングステンAPT(純分10キロ)	390.0	- 395.0
タンタル鉱石30-35%(ポンド)	80	- 84

■K L T M 錫 (MYR/KG、出来高トン)

	(7日)	(8日)
相場	-	-
出来高	-	-
ドル建て価格	-	-
ODレート	3.7600	3.7600
M\$ / US\$ レート	4.5097	4.4972
採算円/キロ	-	-
US\$採算円/キロ	-	-

■LME在庫(トン)

	在庫	増減
(1/6現在)		
銅	267,150	▲ 1,150
錫	4,705	▲ 30
鉛	234,700	▲ 3,200
亜鉛	224,525	▲ 1,175
アルミ	624,275	▲ 3,375
アルミ合金	1,600	-
北米特殊アルミ合金	220	-
ニッケル	165,366	252

■上海在庫(トン)

	在庫	増減
(1/3現在)		
銅	83,174	9,002
アルミ	193,239	▲ 7,946
亜鉛	23,912	▲ 6,324
鉛	48,573	▲ 3,248
ニッケル	34,680	▲ 1,444

■LMEプレマーケット(ドル)

	先物気配		
(1/8)			
銅	8,996.5	-	8,998.0
錫	29,805.0	-	29,905.0
鉛	1,957.5	-	1,959.0
亜鉛	2,872.0	-	2,874.0
アルミ	2,519.0	-	2,520.0
ニッケル	15,415.0	-	15,430.0

■上海相場

トン当たり元、1ロット=5トン・増値税込					
	銅	アルミ	亜鉛	鉛	ニッケル
1月限	74330	19645	24650	16710	122960
2月限	74420	19655	24510	16730	123300
前日比	630	10	▲ 70	▲ 30	230
出来高	14460	6040	6830	570	1002

※8日のKLTMは入電がありません。

非鉄金属製品相場

(1月8日調べ)

(キロ当たり) ◎上げ ◆下げ

伸銅品	大阪	東京	鉛亜鉛製品	大阪	東京	電線 (現場納め 定尺 関西地区 大口~小口)
銅小板2.0ミリ	◎ 1800	◎ 1810	亜鉛板0.3×3×7	630	630	V V F
建築用0.3ミリ	◎ 1850	◎ 1860	印刷用亜鉛板トッパン用	720	720	2C×1.6 64~66
銅大板2×1×2	◎ 1930	◎ 2010	給水管13ミリ	245	245	2C×2.0 112~115
銅管(ベース)	◎ 1860	◎ 2010	鉛板1.5ミリ	575	575	3C×1.6 117~120
水道用管(m当たり)13ミリ	◎ 1830	◎ 1980	鉛線3ミリ	405	405	3C×2.0 166~169
銅棒25ミリ	◎ 1710	◎ 1780	軽圧品	大阪	東京	I V
銅条1.5×100	◎ 1765	◎ 1825	アルミ箔0.007ミリ	1160	1175	1.6mm 38.4~40.8
銅線0.9ミリ	◎ 1790	◎ 1840	〃 小板1ミリ	795	805	5.5sq 106~112
銅帯6×50	◎ 1670	◎ 1780	〃 大板1ミリ	775	795	14sq 264~281
銅平角線	◎ 1990	◎ 2010	〃 5052板	835	845	CV-T
黄銅小板2.0ミリ	◎ 1465	◎ 1475	〃 6061板	1360	1375	600V 3C×38 2024~2151
〃 0.3ミリ	◎ 1495	◎ 1505	〃 2017板	1290	1405	600V 3C×60 3132~3330
黄銅大板2×1×2	◎ 1615	◎ 1655	〃 線3ミリ	775	790	600V 3C×100 5251~5582
黄銅管	◎ 1945	◎ 2045	〃 快削棒50ミリ	995	1010	6kV 3C×38 3179~3367
復水器用黄銅管	◎ 1915	◎ 2015	〃 合金棒50ミリ(17S)	980	990	6kV 3C×60 4496~4762
黄銅棒快削25ミリ	◎ 1215	◎ 1360	〃 合金棒50ミリ(56S)	935	950	CVV (関西-関東)
六角棒	◎ 1245	◎ 1390				3C×2 149-153
四角棒	◎ 1275	◎ 1420	貴金属(一般小口向け)			4C×2 200-205
鍛造用	◎ 1255	◎ 1400	白金(グラム)		◎ 5409	6C×2 287-294
ネーバル	◎ 1355	◎ 1500	パラジウム(グラム)		◎ 5439	7C×2 329-337
高力	◎ 1355	◎ 1500	金(グラム)		◎ 14873	合金鉄 10月輸入単価 (CIF)
黄銅線6ミリ	◎ 1650	◎ 1655	銀(キログラム)		◎ 172370	フェロマンガ2%以上炭素含有 201
黄銅平角線ロール仕上	◎ 1850	◎ 1865				〃 その他 199
黄銅条1.5×100	◎ 1460	◎ 1490	レアメタル輸入価格 10月通関 (CIF)			フェロシリコン55%以上 239
リン青銅板一般用1.0ミリ	2400	2390	金属ケイ素(99.99%未満)		316	フェロクロム4%以上炭素含有 263
〃 バネ用0.3ミリ	2600	2600	モリブデン酸化物		5295	フェロモリブデン純分60%以上 5325
リン青銅棒25ミリ	2500	2510	タンタル		92088	フェロバナジウム 3063
リン青銅線3ミリ	2870	2880	マグネシウム		399	フェロニッケル33%未満 482.5
洋白板一般用1.0ミリ	3180	3330	コバルト		4338	
〃 バネ用1.0ミリ	3250	3420	インジウム		48015	電気亜鉛メッキ銅板冷延1ミリ 326

減摩合金 1月6日改定

(500kg以上、大口価格)	
1種	5740
2種	5715
3種	5655
4種	5100
5種	4330
7種	2240
8種	2175
9種	1685

銅合金地金 12月2日発表

(標準価格)	大阪
BC 1種	1460
2種	1840
3種	1935
6種	1630
7種	1715
YBSC 3種	1290
LBC 3種	1860
PBC 2種	1965



非鉄金属材料相場

山元建値 電気銅 1450(8) 金 13,484(8)
 () 実施日 電気鉛 363(6) 銀 155,040(8)
 電気亜鉛 511(6) 錫(99.99%) 6,050(6)

キロ当たり円 ◎上げ ◆下げ (1月8日調べ) インジウム 大口~小口(99.99%) 55,000 ~ 63,000(1)

非鉄原料 (炉前材)		大阪 仲間相場	東京 仲間相場	地 金		大阪 仲間相場	東京 仲間相場
1トン以上外税持込				高値	安値	高値	安値
1 号 銅 線	◎ 1314	◎ 1314	電 気 銅	◆ 1417	◆ 1412	◆ 1419	◆ 1414
2 号 銅 線	◎ 1272	—	電 気 亜 鉛	480	474	480	474
上 銅 (新 切)	◎ 1285	◎ 1281	蒸 留 亜 鉛	468	462	468	462
雑 ナ ゲ ッ ト	◎ 1115	◎ 1114	再 生 日 本 産 亜 鉛 2 種	408	402	408	402
並	◎ 1227	◎ 1212	再 生 亜 鉛 (98%)	363	357	363	357
下	◎ 1208	◎ 1183	電 気 鉛	344	341	344	341
銅 削 粉	◎ 1188	◎ 1183	再 生 鉛 1 号	326	316	324	319
銅 さ い (30%)	25	25	再 生 鉛 3 号	331	329	328	324
新 切 黄 銅 セ バ	◎ 965	◎ 976	錫 1 号	◎ 4850	◎ 4800	◎ 4850	◎ 4800
コ ー ペ ル	◎ 929	◎ 932	ア ン チ モ ン	6000	5950	6000	5950
黄 銅 棒 地	◎ 907	◎ 920	ニ ッ ケ ル (メ ッ キ 用)	2500	2450	2500	2450
黄 銅 削 粉	◎ 901	◎ 915	コ バ ル ト	4500	4200	4500	4200
並 黄 銅	◎ 855	◎ 834	セ レ ニ ウ ム	4200	4000	4200	4000
黄 銅 ラ ジ エ タ ー	◎ 768	◎ 752	ビ ス マ ス	2000	1900	2000	1900
交 叉 ラ ジ エ タ ー	◎ 803	◎ 785	カ ド ミ ウ ム	800	750	800	750
黄 銅 鋳 物	◎ 860	—	マ グ ネ シ ウ ム 合 金	480	460	480	460
山 送 り (55%)	490	—	アルミ地金 99.70 %	◎ 443	◎ 439	◎ 445	◎ 441
上 青 銅 鋳 物	◎ 1042	—	アルミ二次地金 99 %	365	360	365	360
並 青 銅 鋳 物	◎ 1040	◎ 1032	〃 90 %	340	335	340	335
上 青 銅 鋳 物 削 粉	◎ 1035	—	アルミ二次合金ADC12	◎ 478	◎ 473	◎ 481	◎ 476
並 青 銅 鋳 物 削 粉	◎ 1025	◎ 1016	鋳 物 用 C2BS	◎ 503	◎ 498	◎ 505	◎ 500
新 切 リ ン 青 銅 (伸 銅)	—	◎ 1316	青 銅 合 金 地 金 3 種	◎ 1860	◎ 1850	◎ 1930	◎ 1920
〃 (鋳 物)	◎ 1156	—	〃 6種	◎ 1580	◎ 1570	◎ 1620	◎ 1610
リ ン 青 銅 削 粉	◎ 1074	◎ 1070	ハ ン ダ 錫 60 %	3510	3470	3530	3500
新 切 洋 白 (電 子 材)	◎ 1086	◎ 1077	〃 50 %	3050	3000	3070	3040
新 切 亜 鉛	277	277	〃 40 %	2655	2595	2610	2580
日 本 産 日 本 産 日 本 産	197	197	減 摩 合 金 2 種	5110	5080	5115	5085
日 本 産 日 本 産 日 本 産	176	186	〃 4 種	4420	4395	4425	4395
日 本 産 日 本 産 日 本 産	204	202	〃 7 種	1685	1635	1685	1635
日 本 産 日 本 産 日 本 産	87	87	ス テ ン レ ス ・ 特 金	18-8ステンレス 新切		70	70
日 本 産 日 本 産 日 本 産	212	209		〃 ダライ粉		55	55
新 切 アルミ 1 級	◆ 317	◆ 320		高耐食ステンレスSUS316		230	230
新 切 サ ッ シ 1 級	◆ 315	◆ 318		耐熱ステンレスSUS310		340	340
新 切 合 金 1 級	◆ 308	◆ 303		13クローム 新切		30	31
機 械 鋳 物 1 級	◆ 240	◆ 248		ハイス 9種		165	165
ピ ス 付 サ ッ シ P	◆ 267	◆ 272					
合 金 削 粉 P	◆ 197	◆ 198					
込 ガ ラ P	◆ 160	◆ 161					
カ ン ・ バ ラ	◆ 252	◆ 245					

